
ラジオ東方 8 1 . ?

犬兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラジオ東方81？

【Nコード】

N5045Y

【作者名】

犬兎

【あらすじ】

今年の3月に『文学畑、IT育ち。』にて開局しましたラジオ東方がついに『小説家になろう』さんでも放送スタート！

周波数が気分で変わる。不定期更新な番組編成。スタッフは二人。低予算。下ネタ多し。そんな番組たちはリスナーの皆様の温かい支援と幻想郷の皆様の協力で存続しております。

リスナーからの反応が薄いと番組は即打ち切り。

ラジオ東方を作るのは、ラジオの前のあなたたちです！

<以下、作者コメント>

どうも、犬兎です。

当企画は私のブログにて細々と更新していたものなのですが、一回の投稿で可能な文字数制限に悩まされ、思い切ってこちらへ引越してきました。

リスナー（要するに読者）参加型のラジオ風な台詞集となっています。小説ではありませんのでくれぐれもご注意を。

<現在放送（予定）中の番組>

・東方幻想局 81.？

・東方どうでしょう

東方幻想局 8 1 ・ ? 第十三回 『映姫の白黒つけます』 (前書き)

『小説家になろう』での第一回放送はラジオ東方のメイン企画『東方幻想局 8 1 ・ ?』をお送りします。

基本的な内容はブログのものと同様です。

では、よろしくお願いします。

東方幻想局 81・? 第十三回『映姫の白黒つけます』

映姫「四季映姫の東方幻想局 81・?」っ!!」

BGM：六十年目の東方裁判　　Fate of Sixty
Years

映姫「長らくお待たせいたしました！ 東方幻想無のラジオ番組、
東方幻想局でございます！ 本日も幻想郷の人間の里特設スタジオ
から 81.9MHz で放送しております」

映姫「そして、今週から『文学畑、IT育ち』だけでなく、『小説
家になろう』さんでも放送がスタートいたしました！」

映姫「えー、当番組は東方Projectの二次創作である『東方
幻想夢』の世界観に基づきまして、主にリスナーの皆様から寄せら
れたアイデアで進行していきます」

映姫「つまり、この番組を作るのはラジオの前の皆様です。新コー
ナーや、ラジオ本編での話題はもちろんのこと、番組の存続の決定
もリスナーの皆様に委ねられております」

映姫「ちなみに現在お聴きいただいているBGMも、リスナーの皆
様の脳内再生でお願いします」

映姫「それでは、前説が長くなってしまいました、今週も張り切
っていきましょう！」

『四季映姫の東方幻想局、はち・いち・きゅう』

+++++

ただいま、ラジオ東方では、ラジオCMを作つてみたい方を募集しております。

自分の東方二次創作をラジオで宣伝したいという方は、ラジオ東方までメッセージにてお知らせください。

+++++

『四季映姫の東方幻想局、はち・いち・きゅう』

映姫「・・・」

映姫「・・・え？ あ、はいっ！ 失礼いたしました！ 東方幻想局81・・・？ は人間の里特設スタジオにて公開生放送にてお送りしております！」

映姫「申し訳ございません。アイキャッチのエロさにびっくりしてしまつて」

映姫「録音したときは普通の声だったはずなのに、エコーひとつで変わるものですねえ、スタッフさん……？」

映姫「これ終わった後、ゆっくりお話ししましょうね」

映姫「……はいっ！ それでは気を取り直して、今週のメインコーナーと行きましょうー！」

映姫「東方幻想局 81？ 『映姫の白黒つけます』っ！」

映姫「このコーナーは、リスナーの皆様から寄せられた日ごろの悩みなど、白黒つけて欲しいことに対してジャッジを下すコーナーです」

映姫「では、ここからはゲストの方にも登場していただいて、いちよ、バーンとオ！ 進めていきますね」

映姫「今週のゲストはいろいろとグレーゾーンに行く謎の女性。紅魔館メイド長の十六夜咲夜さんです」

咲夜「グレーとは侵害ですね。これは誰がなんと言おうと生乳です」

映姫「その話をしているわけじゃないですから！ 経歴とか、能力とか、いろいろ謎が多いじゃないですか！」

咲夜「そんなに言うなら直接見てみますか！？」

映姫「・・・言葉が通じないのか、この人には・・・？」

咲夜「さて、冗談はここまでにして、最初のFAXを読みましようか」

映姫「絡みづらいゲストだなあ・・・」

映姫「では、一つ目のFAXを・・・ラジオネーム『彰人』さんからいただきました。『最近朝、異常に早く目覚めます』・・・」

映姫「これはいい生活習慣ですね。白」

咲夜「ふふ、果たしてそうでしょうか？」

映姫「はい？」

咲夜「いくら朝早く起きたって、その時間で悪さをしてたらそれは黒ではないでしょうか？」

映姫「な、なんだってー！！ た、例えばどんな悪さをする？」

咲夜「家族で一番にトイレに入って朝の一番濃いおしっこをあえて流さない！」

映姫「な、なんという大罪！ 次に入った人はなんか妙に黄色くなっているトイレの水を目の当たりにして朝から嫌な気分になりますね！ それは黒です！」

咲夜「新聞配達の人が郵便受けに新聞を入れた瞬間、一気に引き抜く！」

映姫「な、なんて卑劣な！ まさに鬼畜の所業です！ 朝、眠い目を擦って新聞を配達してくれる方々に対して、そのような仕打ちをするなんて考えられません！ 真っ黒です！」

咲夜「お隣さんに配達された牛乳を勝手に飲む！」

映姫「そ、それは犯罪行為じゃないですか！ もはや人間のすることとは思えません！ お隣のお父さんが、朝一番の牛乳をどれだけ楽しみにしていると思っっているのですか！ 黒です黒！」

映姫「よ、世の中は私の知らない間にこんなにも罪悪で満ちていたとは・・・恐ろしい」

咲夜「続いて、ラジオネーム『漂流長』さんからいただきました。
『朝起きたときに変な気分になります。悶々と』」

映姫「これは私もなりますので白でお願いします」

咲夜「あら、ご自分には随分と甘いんですね」

映姫「だって夢の中でも小町ったら真面目に仕事してくれないんですよ！　せめて夢の中くらい真面目にしてもいいじゃないですか！　どうやったら小町は真面目になってくれるのかとついつい朝から考え事を・・・」

咲夜「・・・ちっ」

映姫「咲夜さん、今舌打ちしませんでしたか？」

咲夜「四季さま、つかぬことお伺いいたしますが」

映姫「なんででしょう？」

咲夜「非処女ですか？」

映姫「そ、そそそんなことなんで公共の電波で言わなきゃいけないんですか！」

咲夜「だって悶々ですよ！　朝起きたときの悶々なんてひとつしかないじゃないですか！」

映姫「それが私の貞操とどんな関係があるんですか！」

咲夜「朝起きたときに悶々としない人なんてエロいことに飽きた非処女が閉経したクサレBBAだけですよ！」

映姫「各方面で波紋を呼びそうな発言は控えてください！ 今週からリスナーが増える可能性があるんですから！」

咲夜「上辺だけ瀟洒に取り繕ったって、いつかボロが出ますよ！なら、最初っからこんな感じのラジオだって白黒はつきりされたほうがよろしいのではないのでしょうか！？」

映姫「妙なトコだけ正論突かないでください！」

咲夜「で！？ 処女なんですか！？ それともやり んなんですか！？」

映姫「……ぐ、ぐれーで……」

咲夜「はつきりしない閻魔ですねえ……」

咲夜「とある学園モノでは、嫁も子供もいるって調べがついてますよ。 そのくせ、幼馴染と怪しい関係だなんて、とんだ性獣じゃないですか、あなた」

映姫「べ、別世界の話を持ち込まないでください！ そんなこと言うならあっちの世界じゃ私はあなたの上司だって事を忘れないでくださいね！」

咲夜「……」

映姫「……」

BGM：日常坐臥

映姫「ええっ！ もうエンディングの時間ですか！？ あー、はい！ と、いうわけで今週の東方幻想局、いかがだったでしょうか？」

咲夜「当番組ではご意見、ご感想や、新コーナーのリクエスト、司会者への質問やメッセージなど、いろいろと募集しております。気軽に書き込みしてくれて構いませんので、これからよろしくお願いします」

映姫「ただし！ これは小説ではなく、ラジオ番組と言う設定の台詞集ですので、この意図を理解できない方からの感想やメッセージは受け付けませんのでご了承ください」

咲夜「来週も、引き続き私、十六夜咲夜と」

映姫「四季映姫でお送りいたします」

映姫「来週もあなたですか・・・」

咲夜「それは私の台詞ですわ」

二人「それじゃあね、ばいばーいっ」

東方幻想局 81・? 第十三回『映姫の白黒つけます』（後書き）

ラジオCMに関しては、メッセージにて放送して欲しい内容を私に送信していただければ、その内容をそのままラジオ内にて放送します。

自分の小説の宣伝などにご利用ください。

また、新しい番組の提案や、新コーナーのアイデアなどもいただけたら幸いです。

ちなみに、本編中では今週とか来週とか書いてますが、あくまで「次回更新がいつになるうとそれが来週分」ということになっていきます。基本的には不定期更新ですのでご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5045y/>

ラジオ東方 8 1 . ?

2011年11月17日20時03分発行